

入園・入学おめでとう



発行者
NPO 法人いけま福
社支援センター
電話：75-2870



今月7日、夏のような陽気の中、池間幼小中学校の入園・入学式が行われました。池間幼稚園に入園したのは、春川優くん、久貝海鳳くん、與那覇凌雅くんの3名。山口琉生斗くん、松川煌くん、奥平聖音さん、親泊美姫さん、平良美優さんの5名が池間小学校の新1年生として入

学しました。金城駿介さん、與那覇美紅さん、山里莉羅さんの3名は、新しい制服に身をつつみ、池間中学校の新1年生になりました。平成27年度の池間幼小中学校の児童生徒数は、幼稚園3名、小学校22名、中学校14名、計39名です。

新しい校長先生が着任

平成24年度から3年間池間幼小中学校の園長・校長を務めた勝連常治先生が今年3月で退職され、今年度から新しい校長先生を迎えました。新校長に着任したのは、前泊直子先生です。昨年度まで、伊良部小学校の教頭をされていました。前泊校長は、地域とともに、特色ある学校づくりを進めていきたいと学校と地域の連携強化を目指しています。

学童保育と預かり保育

NPO いけま福祉支援センターでは、昨年度より学童保育を開始し、放課後の幼稚園児と小学生の居場所づくりや体験活動の充実などに取り組んできました。今年度から施行される「子ども・子育て支援新制度」により、池間島では、NPOが宮古島市から委託を受けて、池間幼稚園の園舎にて午後の「預かり保育」を実施していくことになりました。池間幼稚園に通う3名に加え、宮古島北部の宮島幼稚園から1名、狩俣幼稚園から5名、西



辺幼稚園から1名、計10名の園児を預かります。小学生の放課後をサポートする学童保育については、平良の「おやこぼし学童」と合体し、池間島の子供たちだけで

なく、島尻、狩俣、西辺、平良からも子どもたちがやってきて、放課後の時間を池間島と一緒に過ごすことになりました。学童・預かり保育担当の下地健吾さんは「お家のような安心できる雰囲気の中、今年度は様々なことにチャレンジしていきたいです。」と意気込みを語っています。今年度の学童保育では、畑での野菜づくり、島内自然探検、島の高齢者から唄や手仕事を習うことなど、島の自然や暮らし・文化をたくさん体験できるような機会を増やしていく計画です。島全体で子供たちを育てることができるようになるよう、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

新入生歓迎大演芸会開催

今月5日、池間島の高校生による、新入生歓迎大演芸会が開催されました。この催しの歴史は古く、戦後直後から70年近く続いているという島の伝統行事で、春から高校に進学する新入生を紹介するとともに、島の方々に余興を披露するという島の一大イベントです。今年には高校生徒会の11名で、企画から進行、音響、演目への出演などをすべて行い、一人ひとりが何役もこなしながら約2時間の会が大盛況のうちに終了しました。実行委員長を務めた孫殊殊さんは、「大変だったけれど、やりがいがありました。高校の合格発表の次の日からみんな毎日練習してくれて、新メンバーもついてきてくれて嬉しかったです。観に来てくれた方も楽しいと言ってくれてよかったです。」と語っています。



シマ学校、アンディーを編む

先月24日、第1回目となるシマ学校が開講しました。今回のテーマは「アンディーを編む」。潮干狩りに持って出かけた時、イモを入れて海で洗う際に使う網袋を、自分たちで編めるようになるかと企画されました。かつては、アダナスの縄を使って編まれていましたが、今回はナイロンロープで練習しました。

当日は、研修で来島していた沖縄・九州地区の看護学生19名も参加し、それぞれに教えあひながらアンディー編みに挑戦しました。今月のシマ学校では、自作のアンディーを持って潮干狩りに出かける予定です。



宮城県石巻市から漁船漂着

先月13日、池間島の北海岸(カギンミヒダ)に一艘の漁船が漂着しているところを勝連見治さんが発見しました。池間漁協と宮古島海上保安署、宮古島市水産課で確認したところ、なんと宮城県石巻市から震災で流されてきた船であることがわかりました。船の名前は「第五徳丸」。持ち主は、天然アワビ、ウニ漁をしている漁師で、現在は代船を購入して元気に漁を再開しているそうです。東日本大震災から4年が経過したタイミングで池間島に漂着したこの漁船は、池間食堂横の広場に設置され、震災のモニュメントとして展示していくとのことです。



今月の予定

- 4月19日(日) 全日本トライアスロン宮古島大会
- 4月20日(月) 14時〜シマ学校「じょじょ!っしいんすが!」(潮干狩りに行く!)
- 4月21日(火) サニツ